



# おちほ

<http://ochiho.noor.jp/>

第70号 平成23年6月15日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 太田正則



はらぺこあおむしも!!  
ガチャピン・ムックも雨宿り

毎年恒例となっていました氏神祭。今年度はあいにくの天気のために、中止となっていました。雨男でもいたのでしょうか。

連日連夜、職員が集まり作った今回の御輿は、人気があり他の施設とは重ならないもの、ということ、「ガチャピン」と「ムック」を作り、今までは違う取り組みとして、提灯大の球体を何個か作り、それぞれを利用者さんに持っていただき完成となる「はらぺこあおむし」を作りました。

しかし残念なことに、当日は午後からの「開寮記念日」にて利用者さん、職員のみにお披露目となりました。

今年は雨のため何も出来ずでしたが、来年は天候に恵まれて、利用者さん、職員共々楽しく御輿を曳く事が出来るのを心待ちにしています。

# なんと言ひ事なんと言ひ事

理事長 山下陽一

## 襲う黒い水塊

二〇一一年三月一日の寒い午後、東北東岸から関東北部にかけて、大震災が起きました。この災禍により一万五千の人が亡くなり、一万人の行方が未だ知れません。

追ってくる真つ黒な水塊がまるで超巨大なブルドーザーのシャベルとなって家庭の冷蔵庫、自動車、家も屋根ごと押し流し、漁船まで鉄橋の橋げたにバリバリ音を立てながら潰していました。

タイトル「なんと言ひ事なんと言ひ事」は朝日新聞に投稿（朝日川柳 藤原康男作 三・四付）されていたものです。一切を破壊尽くしなき倒す光景に、呆然としてことばを失っている様子が凝縮されています。被災現場取材していた新聞記者もリポンを結んだ幼児の遺骸などの惨状に「最初の数日はまともな記事がかけなかった」と述べています。

家を失った人たちの避難所へ石巻の小学校三年生の男の子がダンボール板を掲げて両親を探している写真が報道されました。この少年も津波に流されたのですが、運良く一命をとりとめたのです。ダンボール板の一人ひとりの名前が彼が一生懸命書かいたものでしょう。この報道を見てこの少年に起きた悲劇を身につまされる思いでご覧になった人もたくさんおられたことでしょう。この報道によって数日後親戚の人に出席したということでしたが、震災により両親を失った十八歳未満の子どもは百三十二人に達します。小さい子どもたちは今どんな思いをしているだろうとこみ上

げてくるものを禁じえません。

## フラッシュバック

十六年前の一月、あの阪神大震災が起きた日から十日ほど経つて、バナナ三本と水筒をナツプサックに入れ、震災の様子を記録しておくことと出かけたので福知山線は直接神戸には行けなかった。福知山線三田駅から神戸電鉄で神戸に入りました。都市が震災により受ける被害をまざまざと見せ付けられました。一階が押しつぶされたまま傾いて建っている大きなビル、波のようにうねったままで固着したブロック舗装の道路、下に地下鉄が走っているの、路面がゆるいカーブ状に落ちくぼんでいる車道など、途方もない力がはたらいて破壊している様子に言葉も出ませんでした。

兵庫県庁舎の割れ目もない無傷な外壁（余程頑丈に作られている）と比較して、数百メートル海岸側に寄れば民家の壊滅的倒壊がありました。住宅密集地帯の倒壊現場には崩れた家屋に白菊が置かれていました。それもあちこちに見えるのです。被災した都市の街路を半日足が棒になるほどとにかく歩き回りました。余程興奮状態だったので、空腹になるとか写真を撮っておこうなどという気持ちにはなりません。夕刻になり近くのバス停に向かうと、人々が何千人も連なってバスを待っているのです。J.Rは芦屋駅から東は回復しており、かなり速かったのですが、歩かずに済みました。日の暮れた被災地を歩き

抜け薄暗い駅舎がやつと見ええました。駅構内の臨時に敷かれた踏板をバタバタさせながら電車に乗って家路についたのです。

## 「不都合な真実」はオミット

未曾有の大地震は海岸にある原子力発電所も襲いました。発生後二か月を経て原子力は未だに安全性・安定性は確保されていません。以前から原発の事故があったその都度、その是非を論議されていきましたが最近では温暖化を防ぐということから、二酸化炭素を出さない（その代わり危険な放射能を出している）という考えがエネギー源として、原発推進派は威勢の良いことでした。そして、うちもさつちもいなくなつた今、当局も東京電力も「想定外のことだ。想定が甘かった」と平身低頭して詫言いでいます。これは何を意味しているのでしょうか。

経済産業省の原子力安全委員会は、四月六日、専門の委員会「ありえないだろう」というぐらまで安全設計している、と発言したが、当時の認識に甘さがあったことは深く反省している」として過去の認識について陳謝しました。

しかし、当局は原発は危険であるという専門家の意見があることは充分承知していたのです。

国会図書館には議会議案のために調査・報告する機関があります。原発の地震対策についても報告しており、地震学上においても安全性や事故のリスク評価について専門家の間で激しい隔たりがあることを報告しています。（調査と情報）二〇〇六年（五一五号）

また、一九九七年、神戸大・石橋教授は地震学の観点から「原発震災を予想し、原発の耐震安全性について警鐘を發しました。しかし、同教授の論考も二〇〇六年、国の耐震指針検討分科会においてその論換を汲み上げる不徹底さに責任ある委員としての

仕事を果たせないとして辞任。のちに「途中退席した」と述べています。

アメリカでも原発推進の当局側と原発技術者の間の激しい論争がありました。（朝日新聞「ザ・コラム」四二四付・山中季広記者）

スリーマイル島原発事故当時（一九七九年）、推進当局側だったヘンドリー博士は山中記者の質問をささざるように、「私の哲学では、火でも蒸気でも石炭でも、人類は革新的技術を手に入れるたびに、痛ましい事故に見舞われた。それでも、我々は克服して前進してきた。福島もその例外ではない」と。

一方、一九七〇年代、原子炉の安全性について、GE社の原発開発に当たっていたブライデンボー技師によれば、原子炉容器のものが発見され安全性の評価に社内でも激しい対立があったことを述べ、原子炉の改良を主張するのですが、GE社は経済性を優先し、彼は干され二人の仲間と辞職せざるを得なくなった、というのです。

原子力産業についてきつとその他の産業でも同様なことなのかもしれません。日本もアメリカも同じような構造になっているのは否めません。アメリカ元副大統領アル・ゴアらが地球温暖化問題で象徴的な言葉として使いましたが、当局にとって「不都合はた迷惑な真実」は孤立させて葬り去るといふ構図は日米で一致しているのです。

福島原発の保守管理に当たっていた蓮池透（拉致被害者家族）は「現場では原発は安全だと信じ切っていた。原子炉の炉心に損傷が起きているのは、一千万分の一程度と説明されていた朝日新聞「私の視点」四三〇付」と現場の技術者さえ安全神話づけにされていたことを語っています。

産業経済論の論理を象徴しているアメリカの博士の「福島の悲劇も例外ではない」という観点と原発に対する安全神話は、結果責任の無責任化という敗戦前軍史をそのまま繰り返しているのではないかと思うのです。



# 施設長就任ご挨拶

施設長 太田 正則

このたびの東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災され、大変厳しい環境での生活を強いられておられる皆様に、心からお見舞い申し上げます。

また、震災の影響で発生した原子力発電所事故により、不安な日々を過ごされておられる皆様、一日も早く安心・安全な生活に戻ることが出来ますよう、心からお祈り申し上げます。

三月十一日の出来事を受けて、多くの方が心を痛めておられることと存じます。「心が折れる」という表現がありますが、私はまさにその言葉通り、日々の生活に追われて必要最低限のことを消化する他は何一つ気力が起こらずにいました。ホームヘルパーで利用者宅へ向かう道中のラジオから、震災関連の情報が流れるたびに涙があふれ、車中一人ということもあって、大声を上げること

も多々ありました。今回の出来事でも心のバランスを保つのに精一杯だった方も沢山おられたことと思います。あれからはや二ヶ月が経ちますが、多くの方の協力で着実に一步一步前進してはいるものの、復興というには程遠い現実がニュースで流れる度に、私のようにテレビの前でポロポロと涙を流しておられる方は多いのではないかと思います。

では、この情態に私はどう向き合っていくべきなのか。

それは、目の前にいる人の幸せを考え、そのために行動すること。今出来ることは後回しにせず、今やること。他人に対してはもちろん、自分に対しても正直に生きること。そうして過ごした一日の終わりに、平穩無事に過ごせたことに感謝すること。それがお亡くなりになられた方々への私が取るべき姿勢であり、供養に繋がるのではないかと思っています。

さて、これまでの価値観が大きく変化した状況の中、この四月一日より施設長の職を命ぜられました。ご承知のように落穂寮は昭和二十五年に重度の知的障がいをもつ児童の生

活訓練施設として始まりました。滋賀県全域から対象児童が入所利用され、集団生活・集団行動ができるように日々生活の中で指導してまいりました。養護学校義務制、在宅生活重視、地域生活支援へと制度がシフト変更し、平成十二年に知的障がい者入所更生施設へと転換しました。私が勤めたころは、自閉症児・者への支援の統一性はなく、本人を変えて集団に適応させようというものでした。数多くの取り組みによって本人に合った支援が必要であることが理解されるようになると共に、それは自閉症の方だけではなく、誰もが個人として尊重され、その一人ひとりに合った支援が必要であるということから、自立支援法の中で個別支援計画なるものが義務付けられました。利用者本人の意向を聞き取り、周囲の環境と本人の力を見ながらサービスマン管理責任者が責任を持って作成する事となつていきます。ところが、当寮の利用者さんの半分以上の方は言葉を持たず、会話に至っては殆どの方が難しい状況にあります。そんな利用者さんの意向を知るには日々の生活の中で表現される声や表情から読み取るしかありません。それだけでは不十分で、その読み取った情報から適切な支援が何なのかを、想像力を駆使し相手の立場に立ちながら支援者の価値観で取捨選択し、支援につなげていくこととなります。価

値観は生きていく中での見聞や体験・経験によって培われるものですから、より多くの体験・経験が選択肢をひろげる事になります。しかし、一人の人生では限りがあるため、情報を使って見聞きし、想像の中で疑似体験を積んで多くの考え方に触れ、自分の価値観を形成していくのです。人それぞれ価値観が違うのは、同じ出来事であっても立場によって受け方が違うからであり、また価値あるものである以上、その違いによって誰かが傷ついたり悲しんだり、不快感や嫌悪感を覚えるものであつてはなりません。

今回の震災で「想定外」という言葉をよく耳にしますが、つまり、人の想像力は価値観以上には広がらないのではないかと私は思うのです。そこで私たちは、多くの価値観（職員集団）が集まり、個別支援計画について話し合うことでその人に合った支援計画を作っていくようにしています。そこに責任を持って支援提供していく。これらのことを全職員が意識して取り組むように伝えていきます。

今回の震災で、今まで見出せなかった物や人に価値を見出した方も多くおられることと思います。体験したくなかった出来事ではありましたが、そこから生まれた価値あるものを大切に、目の前におられる人の支援に携わっていきましょう。



# NEW FACE

生活介護事業の増員に伴い、新しいメンバーが加わりました。  
一緒に充実した日中生活を過ごしましょう。



じゅん  
**潤くん(18才)**



ともひろ  
**大洋くん(21才)**

Eco班や療育班でがんばっていただきます!

こんにちは。年齢はかなり……ですが、落穂寮ニューフェイス(汗・)の竹内弥生です。自分の息子より少し年上ぐらいのスタッフさんを先パイに師事させてもらってありますが、みかけそのもので、けっこう間のぬけた部分を持つキャラでございます。

こちらでお世話になる前は、全く職種の異なる業務に就いておりました。そしてそれに対しての目標もたててきましたが、直前のパートで、三雲養護学校におりまして、そこで生徒さんや先生方のふれあいを経て、いい意味で刺激ももらい、現在に至ることとなりました。なかなか学習能力が、スローではありますが、先輩方の指示を仰ぎ素直に受け止め、日々頑張る覚悟しております。趣味はパソコン、ダンスなど。特技はフ

▼いつもの定位置でパチリ!!



☆チャームポイント☆耳たぶ

十二月より事務所でお世話になっております太上英子と申します。「太上」と書いて「おおうえ」と読みます。

たがみ、おおがみ、たのうえ 等々色々なパターンで読まれる事も多く、間違われて呼ばれることには慣れていきますので、どのように呼ばれても返事します。で、何かありましたら、気軽に声をかけてください。

家族は夫、息子、犬の三人ブラス一匹家族です。私は筋金入りのインドアタイプですが、週末は息子のスポーツ少年団(サッカー)の手伝いや応援のため、グラウンドにすることが多いこの頃です。如何に紫外線を防ぐかがこれからの季節の課題です。

日頃の運動不足解消のために、愛犬も引き連れて一緒にウォーキングすることを日課としています。

星空を見上げたりしながら、ひたすら歩くと気持ちも体もすっきりします。

落穂寮にお世話になって、はや五か月。まだまだ至りませんが今後とも宜しくお願いします。

☆チャームポイント☆まんまる顔のだんごっパナ



ラワーアレンジ、大道芸、誰とでも直ぐ会話できること。どうぞよろしくお願い致します。

▲悠子さんと竹内st

# 新 人 紹 介 2011

今年四月一日から落穂寮で働かせて頂いている北川みくといいます。滋賀短期大学の幼児教育保育学科で保育を中心に学んできましたが、なぜ障がい者施設で働こうと思ったのかというと、幼児教育を学ぶ上で障害児保育という科目があり、授業を受けていく中で様々なことに興味や関心がどんどんわいてき、施設で働けたら楽しいだろうなと思うようになりました。そして障がい児保育を教えた下さっている先生が、私のゼミの担当をされていたので、自分は施設で働きたいと言った所、「君は施設で働く事が向いている。応援するので頑張りたい。大変な仕事だがやりがいのある仕事だ」と、色々なことを教えてもらいました。

そして、運よくこの落穂寮で働かせてもらえらることになりました。私は専門的なことを学んだりしていませんが、努力をすれば何でも出来るようになると思っっている。で、努力をして少しでも利用者さん達の気持ちを利用して、いつも一緒に笑っていられるような支援者を目指して日々頑張っています。よろしくお願ひします。

☆チャームポイント☆ つぶらな目とかわいい笑顔♡です



▲弘泰さんと北川st

はじめまして。本年度より男子棟で働かせて頂く事になりました高谷穂野と申します。

私は、華頂短期大学社会福祉学科児童福祉コースの出身です。華頂短期大学では、保育園や知的障がい者施設など五か所を実習させていただきました。これらの実習を終え一番疑問を持った、もっと知りたいと思えたのは障がいについてでした。落穂寮で働き始めてまだ一か月ちょっとですが、利用者さん達と一緒に喜怒哀楽する事が出来るのはこの仕事がとても楽しいです。これからもっと、利用者さん達と信頼関係を深めて生活の質が上がるような支援をさせていただきたいと思っています。男子棟の女性生活支援員として、ちょっとした気遣い出来るように心掛けていきたいです。日々の発見、疑問を大切に利用者さんと楽しく過ごしていけるように頑張ります。

初めまして。びわこ学院短期大学を卒業し、四月から落穂寮の生活支援員として働かせて頂いている岩崎有香です。

在学中は介護福祉コースという事もあり、高齢者施設への実習が多く障がいのある方との関わりは少なかつたです。障がい者施設で働きたいと考えたきっかけは、一度だけ大学から見学に行く機会がありました。そこで出会った利用者の方々は、純粹で生き生きしておられ、こちらまで純粹な気持ちになる事が出来ました。そんな純粹さに惹かれ、また、障がいに関する授業も増え、もっと知りたい関わりたいたいと感じるようになりました。障がい者施設への就職を考えました。

就職して約一か月。少しずつ仕事も覚え、生活にも慣れてきました。日々、利用者の方から学ぶ事があり、新鮮な気持ちで働かせて頂いてます。知識や経験が浅く、ご迷惑をおかけすると思いますが、一生懸命頑張りますのでよろしくお願ひします。

☆チャームポイント☆ 指がちよっと長い!! (手先は不器用)



▲亮さんと岩崎st

私は、華頂短期大学社会福祉学科児童福祉コースの出身です。華頂短期大学では、保育園や知的障がい者施設など五か所を実習させていただきました。これらの実習を終え一番疑問を持った、もっと知りたいと思えたのは障がいについてでした。落穂寮で働き始めてまだ一か月ちょっとですが、利用者さん達と一緒に喜怒哀楽する事が出来るのはこの仕事がとても楽しいです。これからもっと、利用者さん達と信頼関係を深めて生活の質が上がるような支援をさせていただきたいと思っています。男子棟の女性生活支援員として、ちょっとした気遣い出来るように心掛けていきたいです。日々の発見、疑問を大切に利用者さんと楽しく過ごしていけるように頑張ります。

☆チャームポイント☆ そばかす



▲明史さんと高谷st



▶橋本stと亮さん



▶澤田stと伴野さん



今年が悪天候のため、残念ながら氏神祭は中止に……。その代わりではないですが、美味しい「しゃぶしゃぶ」で六十一回目の開寮記念日を祝いました。何年か振りに体育館で行われ、体育館中は賑やかで、何杯もおかわりをした方もおられるほど、満喫されました。

さて、今年も勤続表彰があり、澤田享寿支援員と、橋本照明栄養士が十年表彰を受けられました。杉の子班が安定しているのは澤田支援員の頑張りがあり、毎日美味しいご飯が食べられるのは橋本栄養士の頑張りがあるからこそです。十年分のありがとうの感謝を込めて、美味しい「しゃぶしゃぶ」を堪能しました。

# 第61回落穂総寮開寮記念日!!



▶お鍋を囲んで団樂☆  
◀おいしくいただいています♡



お鍋  
おいしかったよ!!



もう  
食べられないよ!



# お花見遠足

四月十七日、新年度一番手の行事『お花見遠足』に行って来ました。昨年は肌寒い中での遠足だったので、今年はどうかと心配しましたが、当日はとても良い天気でお花見日和となりました。今年も女子棟恒例となりつつある『十禅寺・緑地公園』へ行きました。行きは、歩くペースごとに分かれて、全利用者さんしっかりと歩いておられました。いつもと違う歩行コースに何やら探検気分楽しんで歩いておられました。



▲全員揃って『ハイ！チーズ☆』

皆さん長い距離を一生懸命歩かれお腹もペコペコ。公園に着くと待ちに待った昼食タイム。今年は大さな中華弁当でした。桜の木の下で、桜の木には目もくれず…(笑) 大きなお弁当をあつという間に食べておられました。桜の花びらも舞い、これぞお花見といった感じでした。

食後はおのおのにアスレチック等で体を動かして、のんびりと楽しんでおられます。

そして最後に桜の木の下で全員集合写真！とっても綺麗に撮れました。思った以上に良い天気の中での遠足で、皆さん帰寮後は疲れた様子ではありましたが、楽しく歩き、大きなお弁当に綺麗な桜と、お花見遠足をとても楽しんでおられました。また来年も楽しいお花見になりますように。



▲桜を見ながら元気いっぱい♪



▲頑張って歩くぞ～



▲お弁当おいしいな～



▲穴山さんおいしい？

今年度の男子棟の遠足は、杉の子の歩行でもよく通る松籟公園に行きました。当日はとても良い天気に恵まれ、少し汗ばむ陽気となりました。五つのグループに分かれて、それぞれ歩き、目的地の松籟公園に着くと、みんなで一緒にお弁当を食べ、食べ終わってから隣にあるアスレチックに行つて遊んだりして過ごしました。利用者の方にも多くの笑顔が見られ、とても良い一日となりました。

## 春だ!!桜だ!!!

### 遠足だ



# 竣工 地域生活支援棟



▲キッチン付きの食堂



これまで落穂寮の旧C棟があった場所に新しく「地域生活支援棟」が、三月に完成しました。ここは新たに四月から落穂寮の日中活動を通所利用される方を受け入れるための作業場として建てられたもので、食堂も設けてあります。今後、養護学校の卒業生の活動の場として利用していただければと思います。主には、午前は機能訓練、午後は織物班や療育班が活動しています。利用者のみならず、より充実した日中活動のできる場所が増えました。

また、ここは昨年からはまった居宅介護事業を地域生活支援室として設置し、放課後の日中一時支援の場所としても利用しています。

この新しい拠点から地域福祉と施設福祉の両方の充実した生活を提供できるよう頑張っていきたいと思えます。



このたび、滋賀県共同募金会より、右記の助成金を受けて、左記の事業を完了致しました。

ここに事業の完了のご報告を申し上げますと共に、滋賀県共同募金会をはじめ、ご協力を賜りました関係の皆様にご感謝の意を表します。

| 記     |             |    |  |
|-------|-------------|----|--|
| 事業名   | 地デジ対応テレビの購入 |    |  |
| 購入備品  | シャープ液晶テレビ   | 4台 |  |
| 事業費総額 | 276,805 円   |    |  |
| 助成金額  | 164,000 円   |    |  |

## NHK歳末たすけあい義援金 助成金事業完了のお知らせ

## 泉

▼平成二十三年度がスタートいたしました。落穂寮も、色々な場所です、これまでとは違う、新しい体制が動き始めました。まだ軌道に乗るまでに時間がかかりそうなものもありますが、もう少し温かい目で見守ってもらえればと思います。

▼今年で落穂寮が開寮して六十一年が経ちました。開寮当初と現在とでは社会状況も含めて福祉の世界も大きく進歩したのではないかと思います。しかし、その「大きく進歩した」ものも、一年ごとの小さな進歩の積み重ねでしかありません。

去年と比べて今年に私達はどれだけ進歩できるのでしょうか？何も変わらないわけには行きません。その回答をこれから一年かけて探していきたいと思います。

## 木言

水と太陽と土。  
この三つが木を育てる。力強い野生の生命力。  
そこに人が愛情をそそげば木は美しさを増す。  
土を肥やし、枝を刈り、水を与える。手をかけすぎれば、美しさは増すが、生命力は削がれてしまう。  
美しい生命力のある木を育てる人になりたい。